

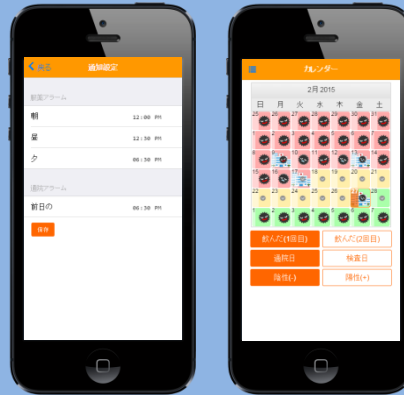
### インドネシア国の開発ニーズ

- 結核は国内の死亡原因の第2位で、推定患者数は世界第2位の160万人
- 結核治療の途中脱落は、治療の失敗、耐性菌の出現、病気の蔓延につながる
- 服薬遵守支援・治療完遂は治療成功率の向上に直結する

### 普及促進事業の内容

- 医療関係者・患者・患者家族などの聞き取りによる現地の結核事情の調査
- 調査結果を反映した服薬遵守支援アプリの現地化とアプリで視聴可能な教育資料の作成
- 結核治療施設での服薬遵守支援アプリの有効性の実証
- 服薬遵守支援アプリの普及による抗結核薬の適正使用環境の整備

### 提案企業の技術・製品



#### 製品・技術名

結核患者のためのスマートフォン服薬遵守支援アプリケーション

#### 事業のポイント

- ・ 政府関係者や結核専門医をメンバーとする組織「Initiative on MDR TB Care」との連携
- ・ ニーズ調査の実績があるNGO「コペルニク」の参画
- ・ 服薬遵守支援アプリ普及に伴う服薬遵守率・治療完遂率の改善

### インドネシア国側に期待される成果

- 服薬遵守支援アプリの普及に伴う服薬遵守率・治療完遂率の改善、さらには治療成功率の向上
- 服薬遵守支援アプリの普及活動に伴う現地関係者への服薬遵守支援への意識改革

### 日本企業側に期待される成果

#### 現状

- 服薬遵守率の低い環境において新薬を導入すると、薬剤耐性菌の出現などから新薬の価値が毀損する

#### 今後

- 抗結核菌薬の適正使用支援環境を整備することを通じて薬剤耐性菌の出現を防止し、新薬の価値を保全する